

子どもの貧困対策 数値目標設定へ！

福岡県議会議員
【古賀市】

田辺かずき 県政報告

古賀発！ただいま
県政刷新中！

～第30号～
2015年10月発行

＜田辺かずき事務所＞
〒811-3103 福岡県古賀市
中央 1-6-41-203
TEL : 092-692-8510
FAX : 092-410-7730
メール : challenge@
tanabe-kazuki.jp

【裏面もあります！】
■本会議での質問を詳細
安保で対話集会を開催
■ラグビーW杯全力応援
古賀各地の敬老祝賀会

9月定例会、知事が方針表明 田辺の議会提案が実る

田辺一城の 発信箱

□18回目の
本会議質問
福岡県議会9
月定例会（9月
18日～10月9
日）が開催され、

私は1期目からの通算で連続
18回目となる本会議質問（一
般質問）に臨みました。今回
のテーマは①子どもの貧困対
策の具体的な推進②障がい

ある子どもの教育機会の保障。
いずれも小川洋知事と教育長か
ら前向きな答弁をいただき、県
政の前進につなげることができ
ました。

□「共に生きる」社会を

政治の最も重要な役割は、私
たち一人一人の生き方が尊重さ
れる社会、多様性を大切にして
共に支え合う社会、誰もが自己
実現を図れる社会を構築してい
くことだと考えています。その
ためには、特に子どもの「機会
の平等」の実現が求められてい
ます。経済的な困窮が子どもの
学びや成長に影響を与えること
がないよう、社会全体で貧困・
格差対策の重要性について認識
を共有し、政策を推進しなけれ
ばなりません。

□政治判断を引き出す

本会議では、私から知事に対
し、福岡県として策定作業を進
めている「子どもの貧困対策推
進計画」について、「実効性を持

たせるため、県独自に数値目標
を設定すべき」と提案。知事は
「生活保護世帯の高校等進学率
などについては、全国数値との
かい離が大きいため、目標を設
定し、重点的に取り組みたい」
と表明、計画に数値目標を盛り
込む意向を初めて示しました。
こうした政治判断をしていただ
き、心強く思います。

□特別支援教育を充実

また、障がいのある子どもの
教育機会の保障についても、教
育長から、県立特別支援学校の
高等部における職業教育を充実
させていく方向性が示されまし
た。今回の本会議質問について
は裏面で詳報し、福岡県議会の
公式ホームページでは質問と答
弁の録画を見ることができま
すので、ご参照いただけると幸
いです。引き続き、皆様のご意見
ご要望を政治に反映させるため
活動してまいりますのでよろし
くお願いいたします。

紀の国わかやま団体に スポーツ議連で参加！

今年の国民体育大会「紀の国
わかやま団体」が開催されまし
た。天皇、皇后両陛下ご臨席の



福岡県選手団の皆さんと一緒に入場行進＝NHKテレビから

もと開かれた総合開会式（9
月26日）に、私は福岡県議会
スポーツ議員連盟の幹事とし
て参加。福岡県選手団の皆さ
んに激励を申し上げ、一緒に
入場行進をさせていただきま
した。NHKで生中継され、
大きく映し出されたので、古
賀に戻ると多くの皆さんから
「行っとつた」とや。映つとつ
たばい！」とお声掛けいただ
きました。福岡県選手団は3
年連続の8位以内入賞を果た
し、特に馬術やウエイトリフ
ティングなどの個人競技に加
え、サッカーなどの団体競技
の活躍が目立ちました。

また、福岡県民体育大会・
秋季大会も開催され、古賀市
が会場となったソフトボール
で古賀市が優勝。バレーボ
ールや陸上などでも好成績を取
っています。今後も、福岡県
のスポーツ振興にしっかりと
取り組んでまいります。

田辺の政治活動を連日発信しています！

田辺かずき

で 検索

ブログ（政治活動日記）
公式ホームページ

facebook
Twitter

<http://ameblo.jp/tanabe-kazuki/>
<http://www.tanabe-kazuki.jp/>
<http://www.facebook.com/kazuki.tanabe>
アカウント→ @tanabe_kazuki

裏面へつづきます

田辺の提案受け、初めて判明 対策推進計画の策定に生かす



田辺の質問が引き出した新事実を報じる毎日新聞2015年10月3日付朝刊

福岡県議会9月定例会の本会議質問で、私は国の「子どもの貧困対策大綱」に基づき県が策定を進めている「子どもの貧困対策推進計画」について、実効性ある計画とするための提案を行いました。この中で、私から計画が対象とする経済的貧困状態にある子どもを数え、県は就学援助率のように求め、県は就学援助率

などを用いた試算として約17万5000人との数字を初めて明らかにしました。実際に、福岡県では18歳以下の子どもが「5人に1人」が貧困状態にあるとの試算結果となり、質問翌日の毎日新聞は福岡県版トップでその内容を具体的に報じました。

また、私から知事に対し、本県の子どもへの貧困対策推進計画における数値目標の設定について質問。国の大綱が改善のための将来的な数値目標を設定しておらず、実効性に疑問が残るため、福岡県として数値目標を設定すべきと提案しました。知事は「生活保護世帯の高等学校等進学率、高等学校等中退率、児童養護施設入所等児童の大学進学率などについては、全国数値との

かい離が大きいので、目標を設定し、重点的に取り組む」と考えている」と表明、計画に数値目標を盛り込む意向を示しました。私は新聞記者時代から、子どもの貧困の根絶を目指して活動する国際NGO「セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン」による現状調査に同行取材するなどしてきました。貧困は社会全体で意識すべき課題であり、その政策展開は、一人一人の状況をしっかりと把握しながら進めなければなりません。県議として引き続きしっかりと取り組んでまいります。

障がいのある子どもの教育機会の保障についても、教育長に取り組みの姿勢を質しました。障がいのある子ども、障がいのない子ども

教育を受け、社会で生きていくための基礎を築いていくことは、普通の権利です。私からは、特に留意すべきこととして知的障がいの児童・生徒の急激な増加を指摘。高等部のみが設置された県立特別支援学校として、福岡高等学園（筑紫野市）と北九州高等学園（中間市）があり、軽度の知的障がいのある子を対象に職業訓練に重点を置いた指導を行っているものの、修業できる人数に限りがあり、入学したくとも入学できない子どもが多くいる問題を取り上げました。

そのうえで、両学園の定員増加をはじめ県立特別支援学校の高等部における職業訓練に重点を置いた指導の充実などの取り組みを強化する重要性を提起しました。教育長は「生徒が就職に必要な実践的な技能を確実に身につけられるよう、職業教育のさらなる充実を図っていく」と応じました。



憲法と安全保障で対話集会を開催

対話集会を開催しました。鹿部区公民館（9月17日）と研修棟（8月29日）で、憲法と集団的自衛権の行使容認を含む安全保障法制をテーマに民主主義や立憲主義の重要性について考えました。ご参加いただいた多くの皆さんに感謝いたします。

ラグビーW杯を全力応援！



2019年、福岡開催を盛り上げよう！

ラグビー・ワールドカップ（W杯）イングランド大会で、日本代表が世界の強豪・南アフリカに勝利するなど3勝し、とても盛り上がりました。古賀市出身のWTB福岡堅樹選手（福岡高一筑波大）も出場。私もサモア戦と米国戦は福岡選手の地元・町川原1区公民館で地域の皆さんと応援しました。

4年後の2019年W杯は日本での開催。福岡のレベルファイブスタジアムも会場となります。私も県議会本会議で試合会場誘致を知事に求めてきた経緯もあり、今後も機運醸成に取り組んでまいります。一緒に盛り上げていきましょう！

<田辺かずき プロフィール>

- 1980年5月16日生まれ
- 1987年 暁の星幼稚園 卒園
- 1993年 花鶴小学校 卒業
- 1996年 古賀中学校 卒業
- 1999年 福岡県立福岡高校 卒業（高51回、現在は同窓会顧問）
- 2003年 慶應義塾大学法学部法律学科 卒業
毎日新聞社 入社 / 福井支局 配属
- 2006年 大阪本社社会部 配属
- 2011年 福岡県議会議員 初当選
厚生労働環境委員会（～13年）
国際交流推進対策調査特別委員会（～13年）
- 2013年 新社会推進商工委員会（～15年）
防災及びエネルギー・水安定供給調査特別委員会（～15年）
- 2015年 福岡県議会議員 2期目当選

【所属】福岡県議会・広域行政推進対策調査特別委員会 副委員長 / 同・農林水産委員会、議会運営委員会 / 同・タイ友好議員連盟事務局長 / 同・スポーツ議員連盟幹事 / 全国青年都道府県議会議員の会（福岡県世話人） / 民主党青年委員会 副委員長 / 民主党福岡県第4総支部幹事長

【家族】会社員の妻、8歳の長男、5歳の長女

みなさんとともに— 古賀での活動

KBF大成功！ 敬老祝賀会を駆け抜ける！

秋はスポーツや芸術・文化のイベントが盛りだくさん。恒例の一大イベントとなった商工会青年部主催の「KBF（古賀パンブーフеста）」は、子どもたちの願いを込めたランタンが幻想的な雰囲気を出し、花火も打ち上げられて大成功。私も当日準備から手伝わせていただき、感動しました。筵内、青柳、古賀の放生会にもそれぞれ参加。古賀西校区の通学合宿にもおじゃましました。



9月に市内各地で開催された敬老祝賀会も全力で回りました。人生の先輩の皆様方にお祝いを申し上げ、多くのご意見ご要望をいただくことができました。心から感謝いたします。